

ギャバロン茶成分の分画とその投与によるラット血圧の変動
大妻女大家政○加藤由紀子，齊藤ひろみ，大森正司
農水省野菜茶試 深津修一，橋詰和宗

目的 ギャバロン茶は本態性高血圧発症ラット（SHR）やヒトの血圧上昇を抑制し，その作用の一つはアンジオテンシン変換酵素に抑制的に作用すること，また一方では食塩負荷による腎機能障害を軽減する作用のあることを認め報告してきた。今回はギャバロン茶を直接投与することにより，その変動を観察，またギャバロン茶成分を分画して投与し，血圧との関係について検討したので報告する。

方法 ギャバロン茶は，1993年5月（一番茶），農水省野菜茶試において産した品種やぶきたを用い，常法により製茶した。ラットはSHRを用いて，日本クレア製餌料CE-2に10%の割合にギャバロン茶を混合し，投与した。又，ギャバロン茶浸出液にヘキサソール，酢酸エチル，ブタノールで順次分画し，残液を更に透析して内外液に分離，SHRに投与した。各画分のアミノ酸，糖類を分析すると共に，ラットは，血圧測定，血液生化学検査，血液、肝臓中遊離アミノ酸量を測定した。

結果 ①全実験期間を通し，体重，摂食量，摂水量において，対照区との間に差は認められなかった。②ギャバロン茶直接投与および溶媒で分画した各残液で，SHRの血圧上昇抑制効果が認められた。③ギャバロン茶浸出液およびブタノール抽出残液にグルコースをはじめ多くの単糖類の存在していることが示された。